

# 第2回 射水市観光振興計画策定委員会

日時 平成29年11月27日(月)

午後2時30分から

場所 射水市役所大島分庁舎 3階大会議室

1 開 会

2 あいさつ

3 議 事

(1) 協議事項

①射水市観光振興計画(素案)について

(2) その他

4 閉 会

**懐かしさと新しさの中に  
食・景観・文化の魅力を満喫できるまちを目指して**

**射水市観光振興計画  
(素案)**

平成●年●月  
富山県射水市

## 目次

	ページ
第1章 計画策定の背景	1
1. 計画の目的	1
2. 計画の位置付け	1
3. 計画の期間	1
4. 射水市観光・ブランド戦略に基づくこれまでの取り組み	2
第2章 観光の現状と動向	6
1. 全国の観光動向（国・富山県）	6
（1）国内のマーケット動向	6
（2）富山県内の観光動向	10
（3）国・富山県の観光振興政策	11
2. 射水市のイメージの現状	13
（1）全国における射水市の認知度・魅力度	13
（2）射水市のイメージ	14
3. 射水市の観光の現状	16
（1）射水市の概要	16
（2）射水市の観光動向	20
参考）アンケート調査の結果	27
4. 射水市の観光に対する課題	39
第3章 射水市の観光振興計画の戦略と施策の展開	41
1. 基本方針	41
2. 基本目標	41
3. 基本戦略と施策の展開	42
基本戦略Ⅰ 『射水市』の認知度向上（ブランド力の向上）	43
基本戦略Ⅱ 『射水市』の魅力度の向上 （射水市が持つ地域資源の結びつきの強化とブラッシュアップ）	47
基本戦略Ⅲ 『射水市』としての受入体制の整備 （射水市の観光を持続的に発展するための基盤整備）	54
第4章 射水市の観光振興計画を推進するために	57

# 第1章 計画策定の背景

---

## 1. 計画の目的

平成24（2012）年3月に策定した「射水市観光・ブランド戦略プラン」では、「食・水・祭」を基本方針とし、「地域イメージの向上」と「交流人口の増加」を図ってきました。

その後、北陸新幹線開業をはじめ、新湊大橋の開通、数々のドラマや映画のロケーションに活用されるなど、本市の観光を取り巻く環境は大きく変化しています。

そのため、平成24年に策定した射水市観光・ブランド戦略プランを基本とし、ますます多様化する観光ニーズや増加する訪日外国人観光客の受け入れに対して「射水市らしい」対応を図っていく必要があります。

このことから、本市が持つ自然特性や立地特性を活かし、定住・交流人口の拡大はもちろん、観光消費の増大等を図るため、ブランディングとマーケティングの視点を活用しながら、戦略的かつ実益的な射水市観光振興計画を策定します。

## 2. 計画の位置付け

本市の最上位計画である「第2次射水市総合計画」（計画期間 平成26年度～平成35年度）や「射水市まち・ひと・しごと創生 総合戦略」（計画期間 平成27年度～平成31年度）、そして、射水みなとまちづくり方策（平成26年3月策定）をはじめ、国や県の関連計画との整合性を図りながら、本市の観光振興に関する内容を計画的かつ戦略的に推進するための基本目標や施策の方向性、選択と集中による取り組み、計画推進のための役割分担と推進体制を示したものです。

## 3. 計画の期間

本計画の期間は、平成30（2018）年度から平成34（2022）年度の5年間とします。

#### 4. 射水市観光・ブランド戦略プランに基づくこれまでの取り組み

本市では、「地域イメージの向上」「交流人口の増加」を図るため、平成24(2012)年3月に「射水市観光・ブランド戦略プラン」を策定しました。

本市を象徴する、海や河川・野が育む豊かな食、水辺の景観、市民参加・伝統ある祭りを3つの資源とし、食の資源を中心に、個々の地域資源を確立・連携させ、広い分野に発信することを基本方針として、5つの戦略による様々な取り組みを行ってきました。

##### 射水ブランドに係る数値目標

地域イメージの向上（地域ブランド調査 魅力度） 731位（平成23年度） ⇒ 500位（平成28年度）
--

##### 観光交流に係る数値目標

交流人口の増加（観光施設、イベント等入込数） 3,238,666人（平成22年度） ⇒ 4,000,000人（平成28年度）
---

##### 【年度別数値結果】

年度	射水ブランドに係る数値（魅力度）	観光振興に係る数値目標（入込数）
平成24年度	668位	3,969,131人
平成25年度	800位	3,871,919人
平成26年度	639位	3,887,391人
平成27年度	510位（555位）	4,104,155人
平成28年度	828位	4,184,986人

#### 戦略1 地域イメージの全国発信

##### ■ベイエリアの活用【認知度 500位以内】

主な取り組み内容	
平成23年～	内川十楽の市（NPO水辺のまち新湊）
平成24年	新湊大橋開通記念イベント
平成25年	あいの風プロムナード開通記念イベント、1周年記念イベント、ばしふいっくびいなすサンセットディナークルーズ
平成26年	ばしふいっくびいなすワンナイトクルーズ、全国中学ヨット大会、世界で最も美しい湾クラブ加盟
平成27年	ベイエリアキャッチフレーズ公募・決定「夢つなぐ きときと射水 ベイエリア」、射水観光情報館リニューアルオープン、第1回タモリカップ開催、全国豊かな海づくり大会開催、第1回富山マラソン開催、富山湾岸サイクリング開催、あいの風プロムナード・内川遊歩道が新日本歩く道紀行100選に選定
平成28年	全国絵本ミュージアム会議開催、全国鏝絵サミット in 射水開催、第2回タモリカップ開催、第2回富山マラソン開催
平成29年	第3回タモリカップ開催、第3回富山マラソン開催、あいのかぜジェントルライド開催

■ロケーションの誘致及び活用【映画、テレビ、CM等の撮影 年間10回以上】

平成24年	映画「脳男」「あなたへ」
平成25年	NHKラジオ公開収録（海王丸パーク）、インド映画
平成26年	NHKラジオ公開収録（海老江浜公園）、映画「アオハライド」「仮面ライダードライブ」（爆破シーン）、インド映画、ドラマ「タクシードライバーの推理日誌36」、テレビ「びったんこカン・カン」
平成27年	テレビ「お袋もう一杯」「大食い選手権」「もしもツアーズ」「火曜サプライズ」、ドラマ「恋仲」、NHK「鶴瓶の家族に乾杯」、CM「大人の休日倶楽部」（JR東日本）、映画「真白の恋」「人生の約束」ロケ
平成28年	テレビ「24時間テレビ ダーツの旅スペシャル」、映画「ナラタージュ」ロケ、映画「人生の約束」第7回ロケーションジャパン大賞、撮影サポート部門 特別賞 受賞
平成29年	アマゾンプライムビデオ「日本をゆっくり走ってみたよ」ロケ、映画「仮面ライダーMOVIE大戦2018」ロケ、映画「真白の恋」公開（H29.2～）、映画「ナラタージュ」公開（H29.10～）
上記以外にも様々なロケが多数あり、商工会や商工会議所、水辺のまち新湊、観光協会等が富山県ロケーションオフィスと連携し、エキストラ確保に動いている。	

■市ゆかりの著名人との連携

取り組み内容	
平成26年	立川志の輔師匠を起用した観光ポスターを作成・県外で展開。荒川区の銭湯で掲出
平成27年	長野電鉄3駅でPR展開、いみずPR大使制度開始（観光協会）水越ユカ（ピースボイスエンターテイメント）が就任、東京都庁富山県PRブースに参加、雷鳥就任
平成28年	いみずPR大使にIMZ i p就任、映画「人生の約束」石橋冠監督に市政功労者表彰を授与
平成29年	立川志の輔師匠を起用した観光ポスターを作成
この他、県内外で行われる各種物産展・イベント等で展開。	

戦略2 食の魅力の創造

■「JAPANブランド」となる商品の創出【産品購入意欲度 150位以内】

平成24年	〈射水ブランド開発補助実績〉 きららか梨（射水商工会）
平成25年	いみず丼（射水市商工会女性部）
平成27年	越のわたりがに（射水市漁業協議会）
平成17年～	〈水産資源〉 近畿大学水産研究所富山実験場研究支援 いみずマリンバイオテクノロジー研究会
平成20～26年	「近大・堀岡トラフグ」PR事業
平成25～26年	「サクラマス」養殖事業化試験飼育事業
平成27年	「トラフグ・サクラマス」PR事業
平成28年	「サクラマス」PR事業（純射水産サクラマス）
平成29年	「サクラマス」PR事業（純射水産サクラマス）継続

■食が楽しめる空間の整備【空き店舗を活用した新規出店者数 5事業者以上】

平成24年	〈新規出店〉 uchikawa 六角堂
平成27年	マリンカフェサザン
平成28年	LETTER（旧小杉郵便局）、お着替え処KIPPO、蜻蛉玉Fe（内川沿い）、番屋カフェ（渡辺邸）、貴婦人館オープン（海王丸パーク内）、ビストロ ボン・グー（古民家）

平成 14 年～ 平成 23 年～ 平成 26 年～ 平成 28 年 平成 29 年	<p>&lt;イベント&gt;</p> <p>旧北陸道アート in 小杉（荒町商店街、ユニコネルモンド、鍔絵、竹内源造記念館）</p> <p>十楽の市（内川周辺）土蔵・番屋等を活用</p> <p>下条川桜まつり</p> <p>下条川夏まつり（平成 29 年には下条川みこし祭りとして開催）</p> <p>ふるさと横丁（小杉駅北口）</p>
平成 25 年～ 平成 25・27 年 平成 27 年 平成 28 年	<p>&lt;フリーペーパー&gt;</p> <p>市町村タイアップ事業（富山 33 の旅冊子・・・秋：内川周辺、春：下条川周辺）</p> <p>るるぶ F R E E 秋冬号（内川周辺食イベント）</p> <p>新湊寺社さんぽ、新湊街道さんぽ発刊（射水商工会議所）</p> <p>新湊曳山さんぽ発刊（射水商工会議所）</p>
	<p>獅子舞競演会：平成 23～28 年 会場をきつときと市場（平成 29 年度から富山新港花火大会と統合）</p> <p>駐車場整備：旧新湊勤労青少年ホーム跡地に駐車場・トイレ整備</p> <p>ICT の活用：「おさんぽ射水」による新湊、小杉地区の情報発信、「きららか観光 N A V I」による射水市内観光情報の発信、Face Book、ムズムズブログ、ツイッターによる観光情報等の発信、「ディスカバートヤマ」による射水市内観光情報の発信</p>

■食のイベントの実施【新たな食のイベントの実施 3 事業以上】

平成 25 年	射水 S 級グルメ発掘発信事業（イタリアンシェフ山根大助氏による射水産食材を使用した食事会）
平成 26 年	青年会議所「進撃のすりみ」、とやまグルメリランド in いみず、B 級グルメイベントへの商工会いみず井出店、カニむき選手権（商工会議所）
平成 29 年	きときといみず大漁まつり（日本橋とやま館）

■食のアンテナショップの設置【新幹線駅での本市特産品の取扱い 20 品以上】実績なし

戦略 3 ニューツーリズムの推進

■ニューツーリズムの掘り起こし【ニューツーリズム商品 10 商品以上】

平成 24 年～ 平成 24 年～ 平成 24・25 年 平成 25 年～ 平成 26 年 平成 26 年～ 平成 27 年～ 平成 28 年～	<p>&lt;体験型観光商品の開発&gt;</p> <p>水辺空間着地型商品開発事業</p> <p>「昼セリ」の観光ルート化</p> <p>「養殖漁業の体験イベント」（堀岡北部漁業協議会）</p> <p>産業観光補助金制度開始（三協立山アルミ、北陸ポートサービス、新湊漁協、クロタニコーポレーション、J F 堀岡養殖）、産業観光ツアー（射水商工会議所）</p> <p>竹内源造記念館リニューアル「鍔絵体験」</p> <p>万葉線フリー&amp;新湊クーポン 日経ラジオ「ムズムズするまち射水へGO」</p> <p>新湊観光船とガイド付き内川散策 観光船下条川ルート開設（船体購入補助）</p> <p>下条川花見遊覧船</p>
平成 24 年～ 平成 25・26 年	<p>&lt;観光ルートの構築&gt;</p> <p>スマートフォンを活用した地域の情報発信サイトの構築</p> <p>平成 24 年「おさんぼしんみなと」、平成 26 年「おさんぼこすぎ」を「おさんぼいみず」で統合</p> <p>射水ビューポイント発掘事業・内川さんぽ発刊</p>

■祭りやイベント等の活用【祭り・イベントと商店街等との連携事業 5 事業以上】

平成 28 年	ワンコイン笑店街×内川十楽の市
平成 29 年	ワン・ツーコイン笑店街×内川十楽の市
平成 28 年～	新湊曳山祭×新湊曳山まつり市民プロジェクト

■観光事業の企画・提案【旅行会社等とのタイアップ 3事業以上】

取り組み内容	
平成 27 年～	「新湊寿司組合と連携したバス誘客」(クラブツーリズム、阪急交通社、他) 「着地型商品の共同企画の実施(昼セリ、ロケ地巡り、内川散策等)」 (地鉄トラベル、新富観光)
平成 28 年～	富山県西部地区観光地区「びゅう」タイアップ企画 観光事業者連絡会設置(観光協会)
	その他、「とっておき観光情報ナビ」(JTB)、「旅の発見」(近畿日本ツーリスト)

■おもてなしの心の醸成【おもてなしの心養成研修参加者 350人以上】

平成 24～29 年	観光ボランティアによるおもてなし研修参加
平成 26 年	職員おもてなし研修参加(市職員向け研修)

戦略4 交通アクセスの整備

■万葉線(軌道)の延伸及び活用【富山駅及び海王丸パークまでの延伸】

平成 24 年	ドラえもん電車運行(高岡市)平成 30 年まで延長
平成 26 年	高岡駅構内まで延伸

■コミュニティバス・デマンドバス等の検討

平成 24 年	コミュニティバス通常路線 1 路線増 計 13 路線
平成 25 年	コミュニティバス通常路線 5 路線増 計 18 路線
平成 27 年	加越能バス 新高岡駅-海王丸直通バス運行(平成 30 年度から廃止予定)
平成 28 年～	バイエリア周遊バス試験運行

■車社会への対応

平成 26 年～	ドライブ雑誌への掲載「北陸ドライブ」、射水市グルメ&観光MAPの製作、旧新湊勤労青少年ホーム跡地(奈古町)に駐車場整備(平成 26 年)
----------	--



## 第2章 観光の現状と動向

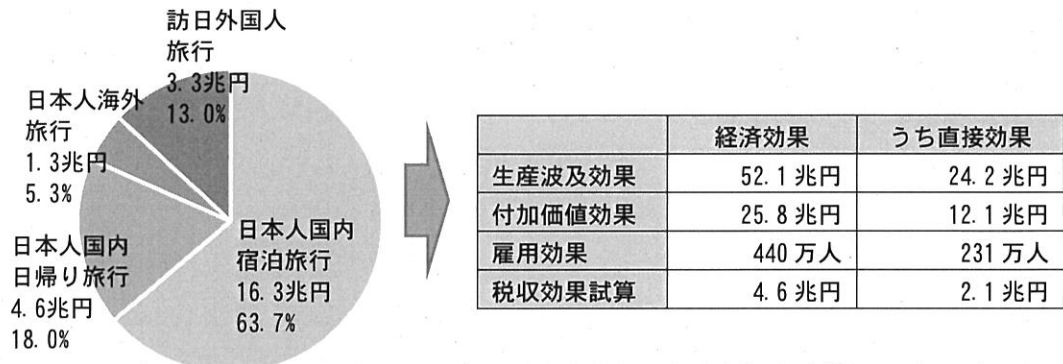
### 1. 全国の観光動向（国・富山県）

#### （1）国内のマーケット動向

##### ①国内旅行消費額

国内の旅行消費 25.5 兆円が日本経済にもたらす経済効果は、生産波及効果が 52.1 兆円、付加価値効果が 25.8 兆円、雇用効果が 440 万人と推計され、税収効果が 4.6 兆円と試算されています。

図. 国内における旅行消費 25.5 兆円の市場別構成比と経済効果 (2015 年)



資料：国土交通省観光庁「旅行・観光産業の経済効果に関する調査研究」

##### ②国内旅行市場

平成 27 (2015) 年の国内旅行市場は、市場区分や費用負担者、旅行形態ともに「個人」に関する項目が最も多く、日帰り旅行より宿泊旅行の延べ旅行者数が多くなっています。

表. 国内旅行市場の推移 (単位：%)

		平成 23 年 (2011 年)	平成 24 年 (2012 年)	平成 25 年 (2013 年)	平成 26 年 (2014 年)	平成 27 年 (2015 年)
市場区分	個人で実施する観光旅行	45.5	46.3	52.7	53.1	53.2
	帰省や家事のための旅行	22.0	20.1	17.2	16.3	15.3
	組織が募集する団体旅行	4.5	5.1	3.6	5.0	5.2
	出張や業務旅行	16.2	16.3	16.2	16.0	16.7
	会社がらみの団体旅行	3.5	3.7	3.4	4.1	4.4
	その他の旅行	8.2	8.5	6.9	5.4	5.3
費用負担者	個人負担	72.0	71.5	73.5	74.4	73.6
	法人負担	19.8	20.0	19.6	20.2	21.1
	その他の旅行	8.2	8.5	6.9	5.4	5.3
旅行形態	個人旅行	83.7	82.7	86.1	85.5	85.1
	団体旅行	8.0	8.8	7.0	9.1	9.6
	その他の旅行	8.2	8.5	6.9	5.4	5.3

資料：公益財団法人日本交通公社「旅行年報（各年）」

表. 日本人国内旅行の延べ旅行者数の推移 (単位: 千人回、%)

	宿泊旅行				日帰り旅行			
		観光・レクリエーション	帰省・知人訪問等	出張・業務		観光・レクリエーション	帰省・知人訪問等	出張・業務
平成23(2011)年	313,561	166,678	92,929	53,954	298,964	192,824	51,733	54,407
	100	53.2	29.6	17.2	100	64.5	17.3	18.2
平成24(2012)年	315,549	171,759	91,604	52,186	297,201	195,903	46,321	54,977
	100	54.4	29.0	16.5	100	65.9	15.6	18.5
平成25(2013)年	320,416	176,421	92,761	51,233	310,534	206,272	48,257	56,006
	100	55.1	29.0	16.0	100	66.4	15.5	18.0
平成26(2014)年	297,343	160,026	86,385	50,932	297,878	188,629	47,692	61,557
	100	53.8	29.1	17.1	100	63.3	16.0	20.7
平成27(2015)年	312,985	171,689	87,258	54,037	291,730	193,702	42,823	55,205
	100	54.9	27.9	17.3	100	66.4	14.7	18.9

資料: 公益財団法人日本交通公社「旅行年報 2016」

### ③国内の訪日旅行の動向

国内旅行消費額に占める訪日観光消費は平成 23 (2011) 年以降増加傾向にあります。

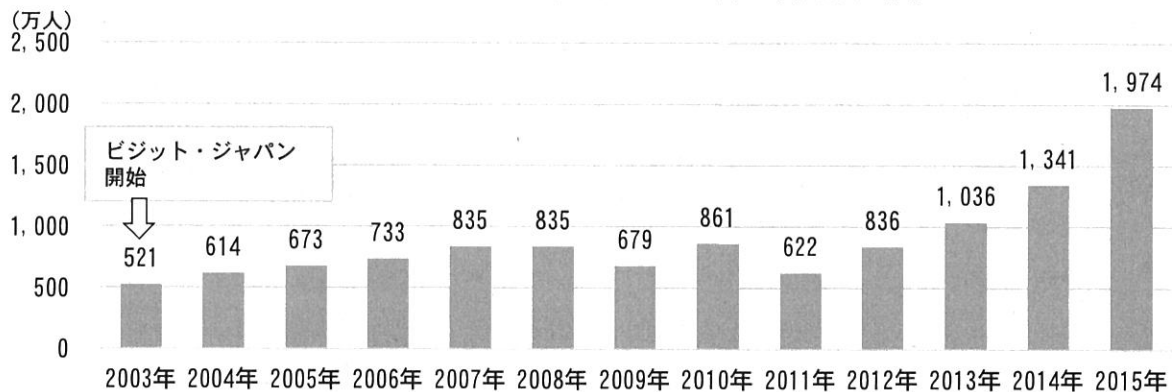
訪日外国人旅行者は、リーマンショックや新型インフルエンザの流行、東日本大震災により落ち込む時期もありましたが、総じて増加傾向にあり、平成 27 (2015) 年の訪日外国人旅行者数はビジット・ジャパンが開始された平成 15 (2003) 年の約 3 倍以上になっています。

表. 内部観光消費に対する訪日観光消費の割合の推移 (単位: 兆円)

	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年
訪日観光消費 (A)	1.0	1.3	1.7	2.2	3.3
内部観光消費 (B)	22.4	22.5	23.6	22.5	25.5
(A) / (B)	4.5%	5.7%	7.0%	9.8%	13.0%

資料: 国土交通省観光庁「旅行・観光産業の経済効果に関する調査研究」

図. ビジット・ジャパン開始以降の訪日外国人旅行者数の推移

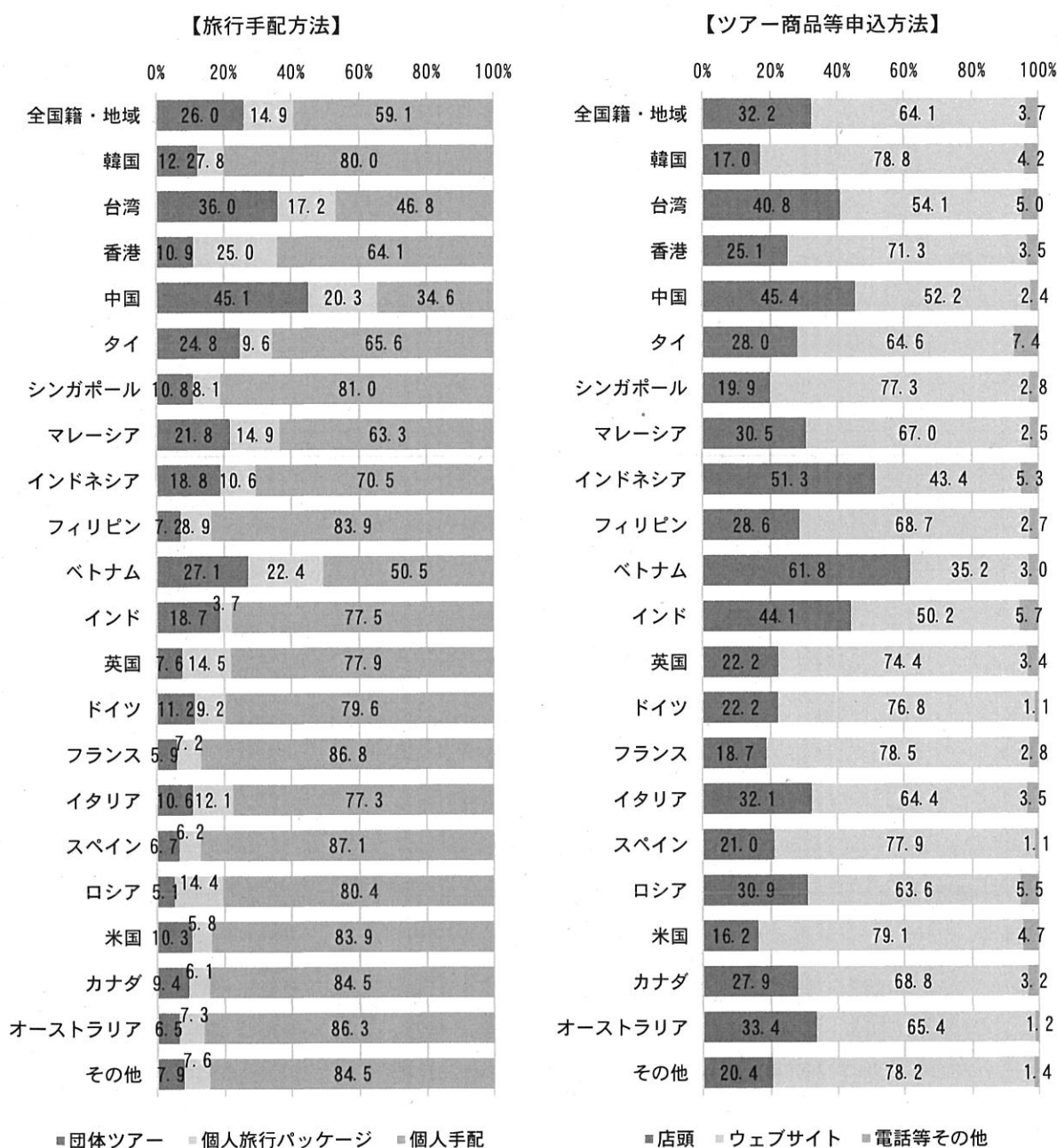


資料: 国土交通省観光庁

観光・レジャー目的で訪れた訪日外国人の旅行手配方法を国籍・地域別にみると、台湾や中国、ベトナムを除くほとんどの地域で「個人手配」が6割以上となっています。台湾や中国、ベトナムは全国籍・地域に比べて「団体ツアー」や「個人旅行パッケージ」の割合が多く、特に中国は「団体ツアー」の割合が45.1%と最も多くなっています。

観光・レジャー目的で訪れた訪日外国人のツアー商品や往復航空（船舶）券の申込方法は、インドネシアやベトナムを除くほとんどの地域で「ウェブサイト」が多く、特に韓国、香港、シンガポール、英国、ドイツ、フランス、スペイン、米国が7割以上となっています。

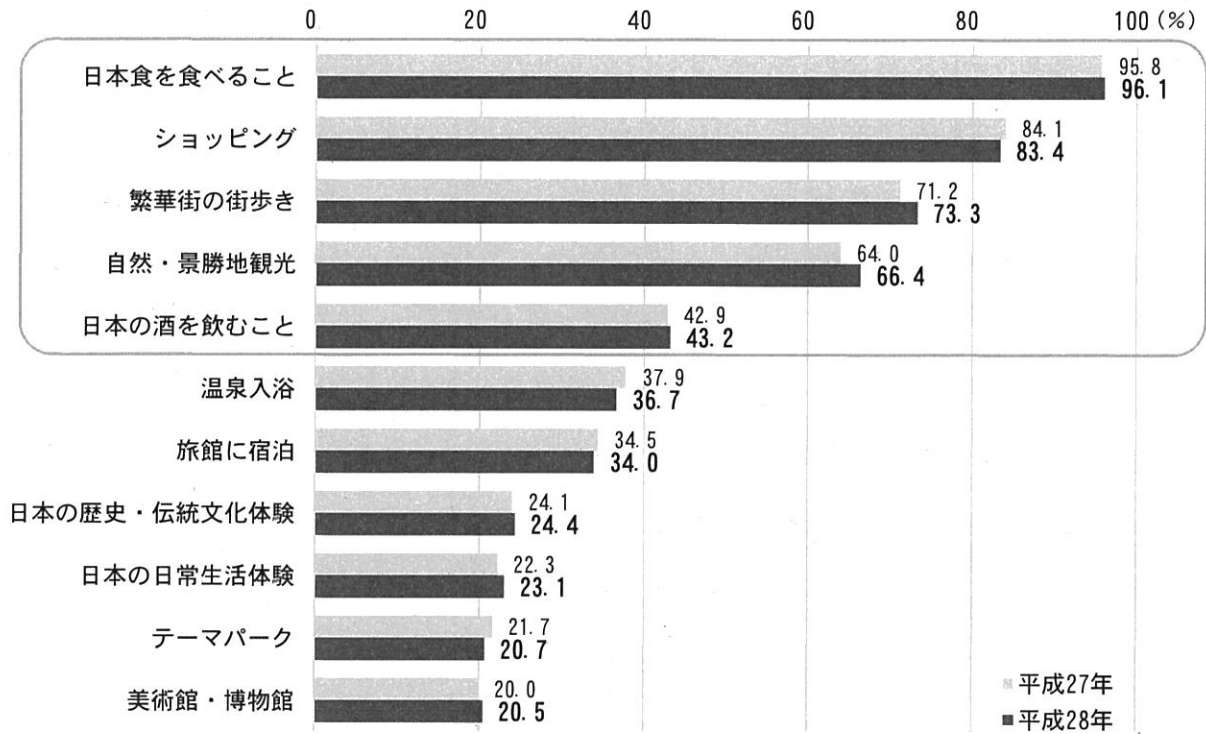
図. 訪日外国人旅行者の旅行手配及び申込方法（観光・レジャー目的）



資料：国土交通省観光庁「訪日外国人の消費動向 平成28年 年次報告書」

訪日外国人旅行者の日本滞在中の行動は、日本食を食べ、ショッピングを楽しみながら繁華街を歩く他、自然・景勝地を観光したり、日本の酒を飲む等、日本の生活文化に触れる行動が多くなっています。

図. 訪日外国人旅行者の日本滞在中の行動（上位項目を抜粋）



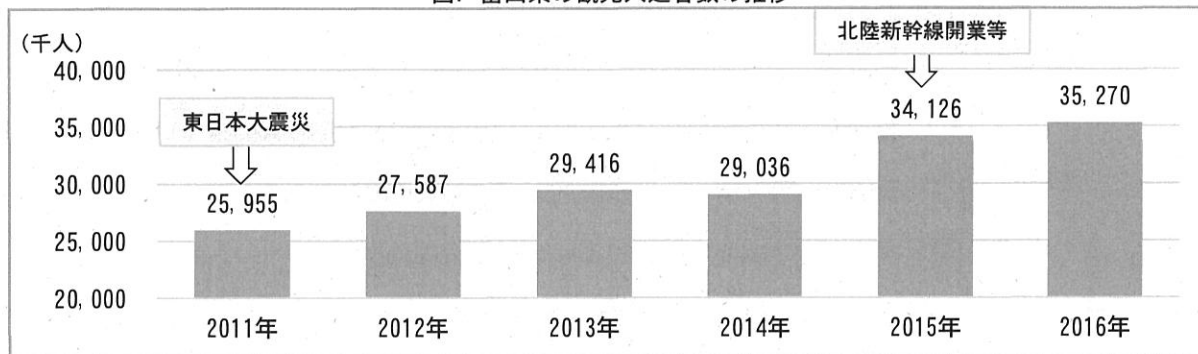
資料：国土交通省観光庁「訪日外国人の消費動向 平成28年 年次報告書」

## (2) 富山県内の観光動向

### ① 県内観光客入込数

富山県の観光客入込数（延べ数）は増加傾向にあり、平成 28（2016）年は 35,270 千人となっています。

図. 富山県の観光入込客数の推移

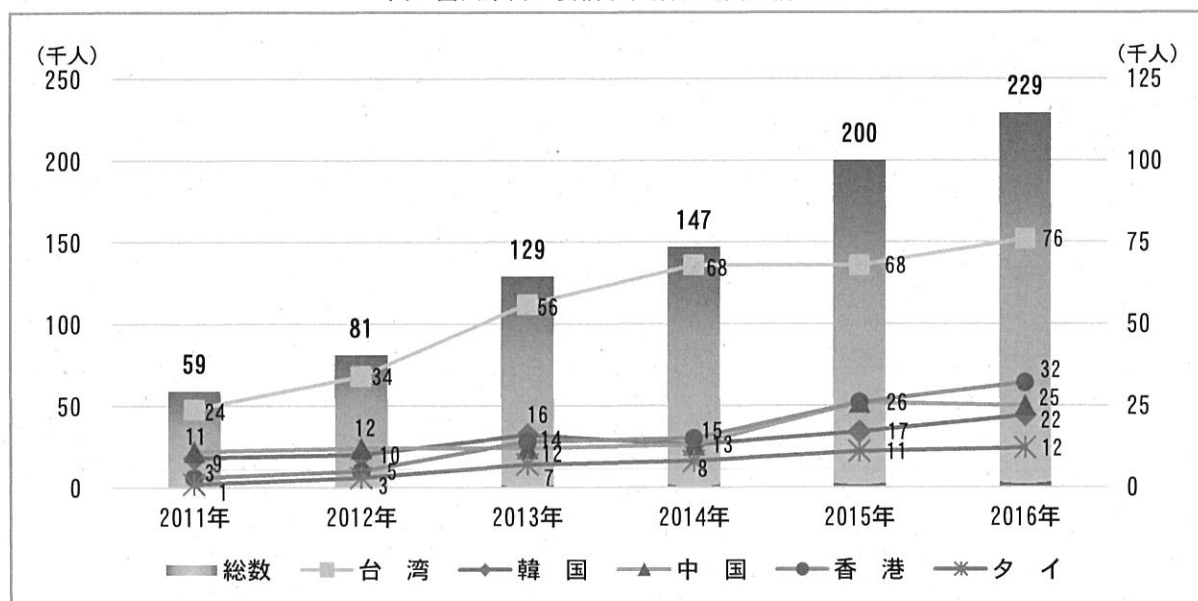


資料：富山県観光客入込数（推計）

### ② 県内の外国人旅行者の動向

富山県内主要宿泊施設の外国人宿泊者数は増加傾向にあります。平成 28（2016）年の富山県内の宿泊者数は「台湾」（76 千人）が最も多く、総数の約 3 割となっています。

図. 富山県内主要宿泊施設の外国人宿泊数



資料：富山県観光客入込数（推計）

### (3) 国・富山県の観光振興政策

国は、平成 25 (2013) 年 3 月に「観光立国推進閣僚会議」を立ち上げ、「観光立国実現に向けたアクションプログラム」を実行しています。平成 27 (2015) 年 11 月には「明日の日本を支える観光ビジョン構想会議」を立ち上げ、平成 28 (2016) 年 3 月に策定した「明日の日本を支える観光ビジョン-世界が訪れたい日本へ-」において、『日本は、自然・文化・気候・食という観光振興に必要な 4 つの条件を兼ね備えた、世界でも数少ない国の一つであり、これらの豊富な観光資源を真に開花させることにより、観光を我が国の基幹産業へと成長させ、「観光先進国」の実現に向けて攻めの取り組みを進めていくこと』としています。

富山県は、平成 20 (2008) 年を「観光振興元年」と位置づけ、同年 4 月に観光・地域振興局を設置し、観光振興と地域の魅力づくりを一体的に進めるための組織の充実をはかり、積極的な取り組みを行っています。平成 28 (2016) 年 3 月に「とやま新時代」にふさわしい「新・富山県観光振興戦略プラン」を策定し、平成 27 年 3 月に開業した「北陸新幹線」の開業効果と、「地方創生」を最大限に活かしながら、これまで以上に戦略的に観光振興に取り組むこととしています。

#### ■明日の日本を支える観光ビジョン (平成 28 年 3 月策定)

<p>新たな目標への挑戦</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●訪日外国人旅行者数 2020 年：4000 万人 2030 年：6000 万人</li> <li>●訪日外国人旅行消費額 2020 年：8 兆円 2030 年：15 兆円</li> <li>●地方部（三大都市圏以外）での外国人延べ宿泊者数 2020 年：7000 万人 2030 年：1 億 3000 万人泊</li> <li>●外国人リピーター数 2020 年：2400 万人 2030 年：3600 万人</li> <li>●日本人国内旅行消費額 2020 年：21 兆円 2030 年：22 兆円</li> </ul>
<p>3 つの視点と 10 の改革</p>	<p><b>視点 1</b> 観光資源の魅力を極め、地方創生の礎に</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①公的施設：魅力ある「公的施設」をひろく国民、そして世界に開放</li> <li>②文化財：「文化財」を、「保存優先」から観光客目線での「理解促進」、そして「活用」へ</li> <li>③国立公園：「国立公園」を、世界水準の「ナショナルパーク」へ</li> <li>④景観：おもな観光地で「景観計画」をつくり、美しい街並みへ</li> </ul> <p><b>視点 2</b> 観光産業を革新し、国際競争力を高め、我が国の基幹産業に</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>⑤観光産業：古い規制を見直し、生産性を大切にする観光産業へ</li> <li>⑥市場開拓：あたらしい市場を開拓し、長期滞在と消費拡大を同時に実現</li> <li>⑦観光地経営：疲弊した温泉街や地方都市を、未来発想の経営で再生・活性化</li> </ul> <p><b>視点 3</b> すべての旅行者が、ストレスなく快適に観光を満喫できる環境に</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>⑧滞在環境：ソフトインフラを飛躍的に改善し、世界一快適な滞を実現</li> <li>⑨地方交流：「地方創生回廊」を完備し、全国どこへでも快適な旅行を実現</li> <li>⑩休暇：「働き方」と「休み方」を改革し、躍動感あふれる社会を実現</li> </ul>

資料：観光庁

■新・富山県観光振興戦略プラン（平成28年3月策定）

基本目標	選ばれ続ける観光地 富山 - 『海のあるスイス』を目指して-
将来像	<ul style="list-style-type: none"> <li>●「海のあるスイス」：世界遺産・世界水準の山岳リゾート+世界で最も美しい湾</li> <li>●「富山で休もう。」：上質なライフスタイルブランド</li> </ul>
施策	<ul style="list-style-type: none"> <li>●マーケティングに基づく観光地域・ブランドづくり</li> <li>●質の重視と地域内経済循環の促進</li> <li>●世界水準に相応しい旅行者の受入体制整備</li> </ul>
重点的に取り組む施策	<ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 戦略的な観光地域づくり</li> <li>(2) 広域観光の拠点化</li> <li>(3) 富山らしい魅力創出</li> <li>(4) 戦略的なプロモーション</li> <li>(5) 国際観光の推進</li> <li>(6) コンベンションの誘致促進</li> </ol>

資料：富山県



## 2. 射水市のイメージの現状

### (1) 全国における射水市の認知度・魅力度

認知度や情報接触度、魅力度等のランキングにおいて、「魅力度」「観光意欲度」の10位までに「金沢市」が入っています。本市は「認知度」715位、「情報接触度」755位、「魅力度」624位、「観光意欲度」508位、「産品購入意欲度」526位と高い順位とは言えません。

表. 認知度・情報接触度などの1000市区町村ランキング

認知度			情報接触度			魅力度			観光意欲度			産品購入意欲度		
順位	都市名 (点数)		順位	都市名 (点数)		順位	都市名 (点数)		順位	都市名 (点数)		順位	都市名 (点数)	
1	京都市 (61.2)	→	1	札幌市 (56.1)	↑	1	京都市 (48.1)	↑	1	札幌市 (53.4)	↑	1	夕張市 (52.2)	↑
2	名古屋市 (60.2)	↑	2	渋谷区 (54.7)	↑	2	函館市 (47.7)	↓	2	京都市 (53.1)	→	2	仙台市 (49.2)	↑
3	札幌市 (58.7)	↑	3	京都市 (53.4)	↑	3	札幌市 (47.0)	→	3	函館市 (52.8)	↓	3	札幌市 (48.1)	↑
4	新宿区 (57.6)	↓	4	新宿区 (53.1)	↓	4	小樽市 (41.3)	→	4	小樽市 (48.0)	→	4	函館市 (47.0)	↑
5	神戸市 (57.1)	↑	5	熊本市 (52.6)	↓	5	鎌倉市 (40.5)	↑	5	屋久島町 (47.6)	↑	5	魚沼市 (43.8)	↑
6	横浜市 (56.2)	↑	6	名古屋市 (52.0)	↑	6	横浜市 (39.7)	↓	6	鎌倉市 (45.9)	↑	6	喜多方市 (43.0)	↓
7	渋谷区 (54.5)	↑	7	仙台市 (51.2)	↑	7	神戸市 (38.1)	↑	7	神戸市 (44.9)	↑	7	松阪市 (42.9)	↓
8	函館市 (54.3)	↓	8	福岡市 (50.8)	↑	8	金沢市 (37.3)	→	8	横浜市 (44.7)	↓	8	小樽市 (42.2)	↓
9	大阪市 (54.2)	↓	9	横浜市 (50.3)	↓	9	富良野市 (36.5)	↓	9	金沢市 (44.6)	↓	9	福岡市 (41.9)	↑
10	仙台市 (52.7)	↑	10	函館市 (49.9)	↓	10	屋久島町 (35.5)	↑	10	仙台市 (44.3)	↑	10	名古屋市 (41.6)	↑
・			・			・			・			・		
715	射水市 (12.5)	↑	755	射水市 (6.5)	↓	624	射水市 (3.3)	↑	508	射水市 (14.1)	↑	526	射水市 (20.7)	↑

資料：株式会社ブランド総合研究所「第12回地域ブランド調査2017」

#### 地域ブランド調査

「認知度」「情報接触度」「魅力度」「観光意欲度」「産品購入意欲度」などの各指標を独自に設定し、20～70歳の消費者にインターネット調査を行い、回答を点数化・集計、評価を行っているもの。

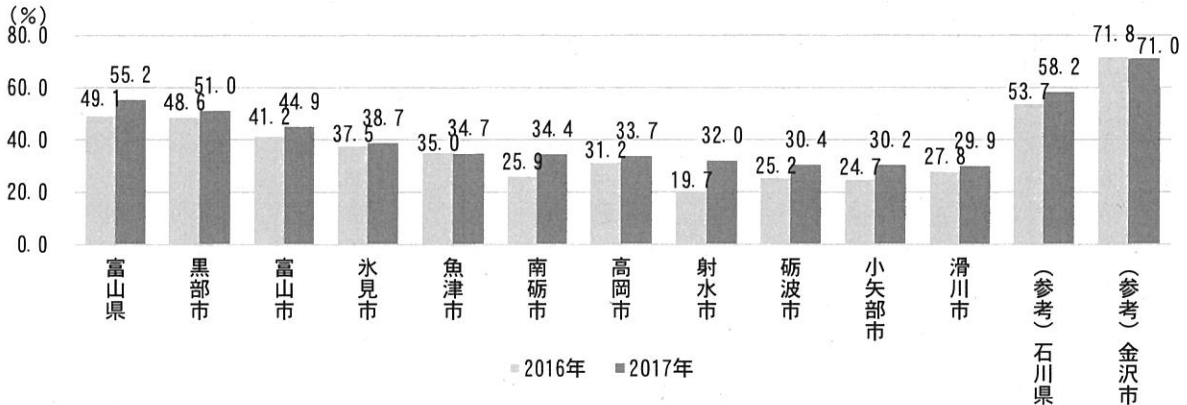


(2) 射水市のイメージ

富山県内の市のイメージ想起率は、「黒部市」(51.0%) が最も多く、次いで「富山市」(44.9%)、「氷見市」(38.7%) となっており、「射水市」のイメージ想起率は32.0%となっています。

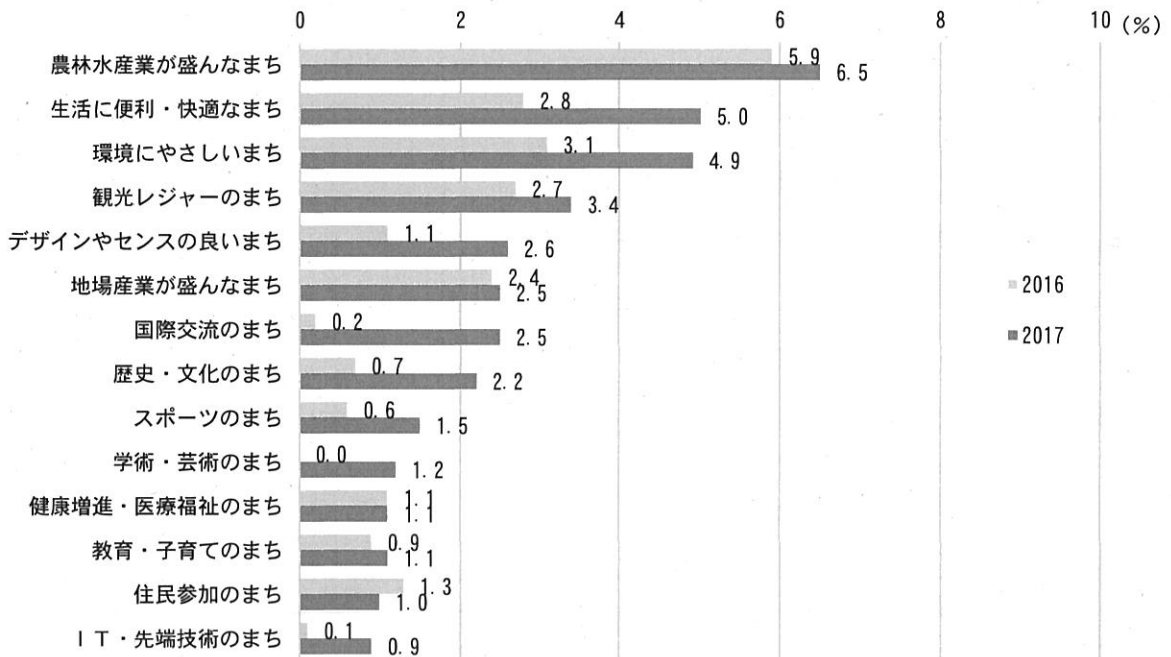
本市のイメージ想起率の内訳をみると、「農林水産業が盛んなまち」(6.5%) が最も多くなっています。

図. 富山県内の市のイメージ想起率



資料：株式会社ブランド総合研究所「地域ブランド調査」

図. 射水市のイメージ (14項目、複数回答)



資料：株式会社ブランド総合研究所「地域ブランド調査」

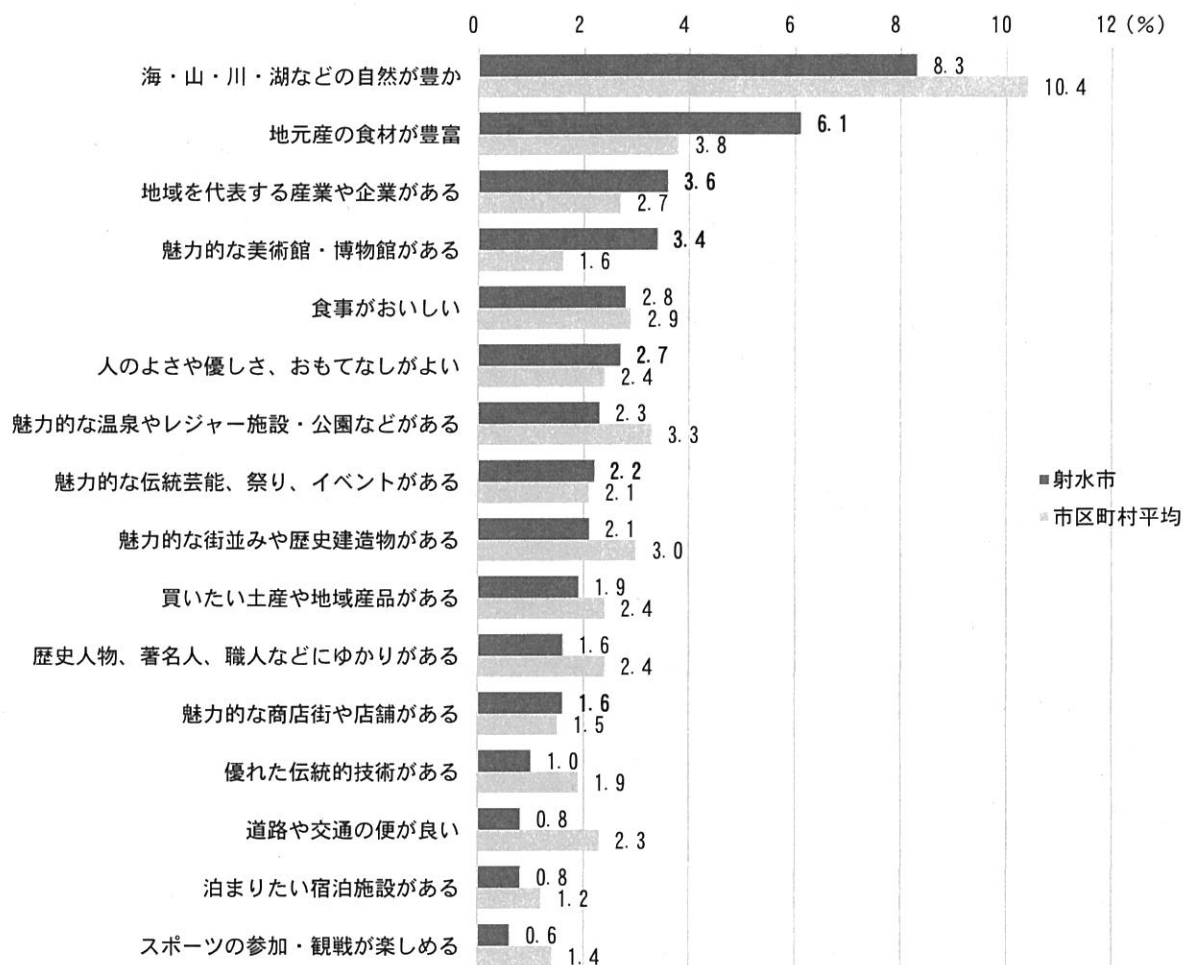
イメージ想起率

各自治体に対して、市区町村のイメージのどれか1つでもイメージがあると回答した人の割合で、「自治体のイメージ」の14項目の各設問に全て回答しなかった人の割合(無回答)を引いて算出したもの。

$$\text{イメージ想起率} = 100 (\%) - \text{「無回答」者割合} (\%)$$

地域資源のイメージに対する評価をみると「海・山・川・湖などの自然が豊か」(8.3%)が最も多く、次いで「地元産の食材が豊富」(6.1%)、「地域を代表する産業や企業がある」(3.6%)となっています。

図. 射水市の地域資源のイメージ評価 (16項目、複数回答)



資料：株式会社ブランド総合研究所「第12回地域ブランド調査2017」

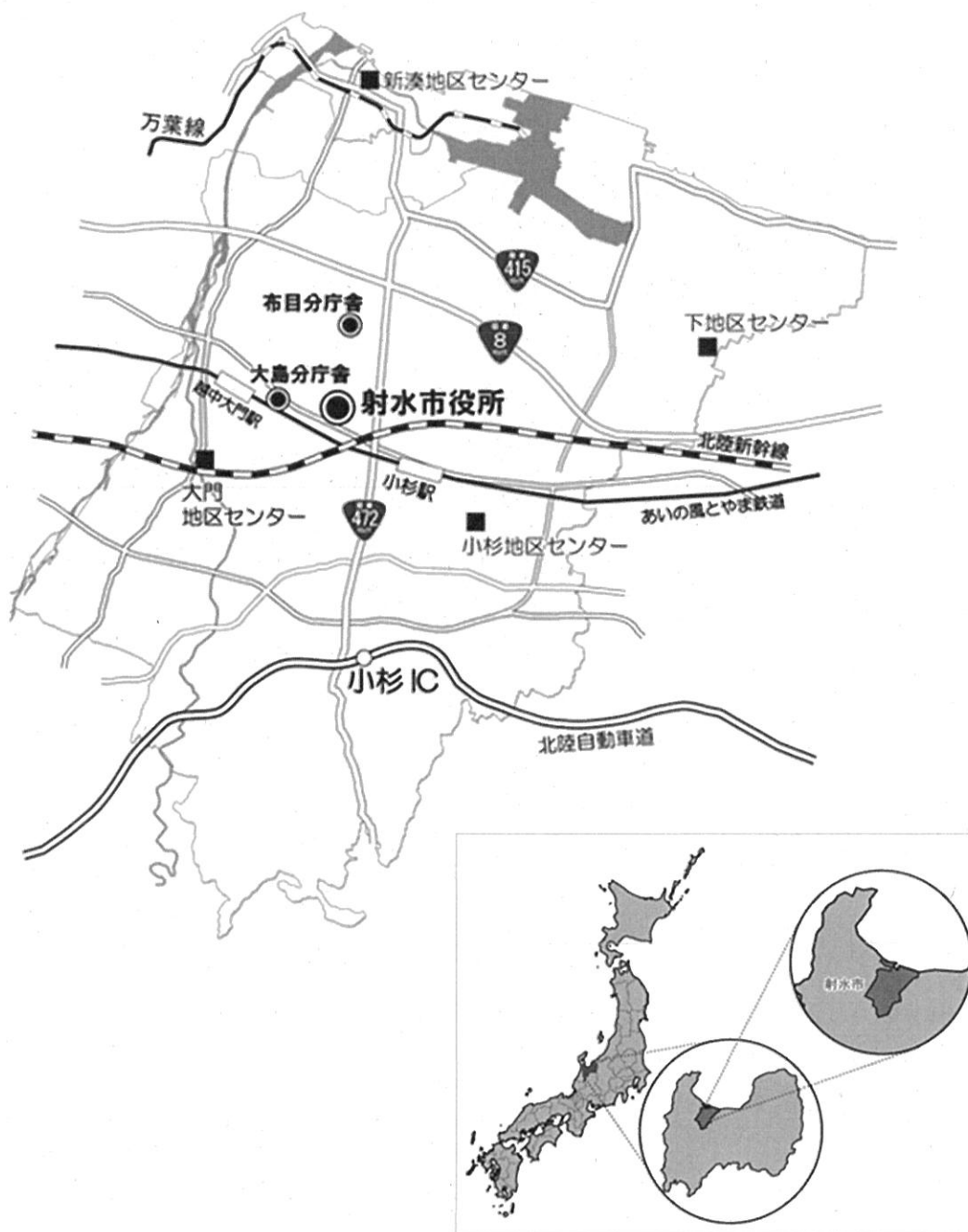
### 3. 射水市の観光の現状

#### (1) 射水市の概要

##### ①位置

本市は、環日本海交流拠点である富山県のほぼ中央に位置しており、東方は富山市、西方は高岡市、南方は砺波市に隣接しています。半径7キロメートルのまとまりある土地面積は109.43平方キロメートル（うち可住地面積97.07平方キロメートル、89%）で、北は富山湾に面し、中央に射水平野、南部に射水丘陵を配し、標高0～140.2メートルを測り、県土面積の約2.6%を占めています。

図. 射水市の位置



資料：射水市ホームページ

## ②沿革

「射水」という地名は、古くから書物や地図にその名が記されるなど、長い歴史を持つ由緒ある名前です。

射水市は、富山県を代表する大河である神通川と庄川の間に広がり、中小の河川や地下水に恵まれた土地として古くから栄えてきました。

行政区域としての「射水郡」という地名の初見は、古代の746年に越中の国司として伏木に赴任した大伴家持の長歌（『万葉集』）にみえ、奈呉の浦（新湊）や三島野（大島、大門一帯）の地名も詠まれています。

中世の射水平野は、古放生津潟が大きく広がっていましたが、潟に流入する下条川、鍛冶川、神楽川等の堆積作用によって、次第に射水平野が形成されました。

下村の加茂神社は、1066年に京都の下鴨神社から勧請して成立したとされ、射水地方の賀茂神をまつる社の総社とされています。

鎌倉時代には放生津（新湊）に守護所が置かれ、以後、数百年間、放生津は越中の政治・経済・文化の中心となりました。1493年には室町幕府の将軍足利義材が京都での政変を避けて、5年間放生津に滞在したことがあります。

近世初期の旧北陸道は、城下の金沢から今石動-中田-水戸田-黒河ルートでしたが、1660年代以降は、高岡-大門-大島-小杉-下村を通ることとなり、大門・小杉・下村は市場町、宿場町として栄えました。

近代になり明治22年に市制町村制が施行され、新湊市、小杉町、大門町では周辺の村々と大同合併をすすめました。昭和38年には国営射水平野農業水利事業が行われ、平野は肥沃な乾田農地に生まれ変わりました。

高度成長下の昭和39年に「富山・高岡新産業都市」建設の指定を契機に、放生津潟を掘り込んで日本海側最大の富山新港の建設が開始され、その周辺は臨海工業地帯に、また太閤山には一大ニュータウン、県民公園太閤山ランドが建設され、さらに大学や研究機関等も進出しました。昭和48年には北陸自動車道の開通に伴い小杉インターチェンジが開設され、昭和58年には小杉町、大門町が「富山テクノポリス」区域に指定されて流通業務団地が形成されるなど、地域は大きく変貌しました。

平成17年11月1日、新湊市、小杉町、大門町、大島町、下村の5市町村が合併し、射水市が誕生しました。

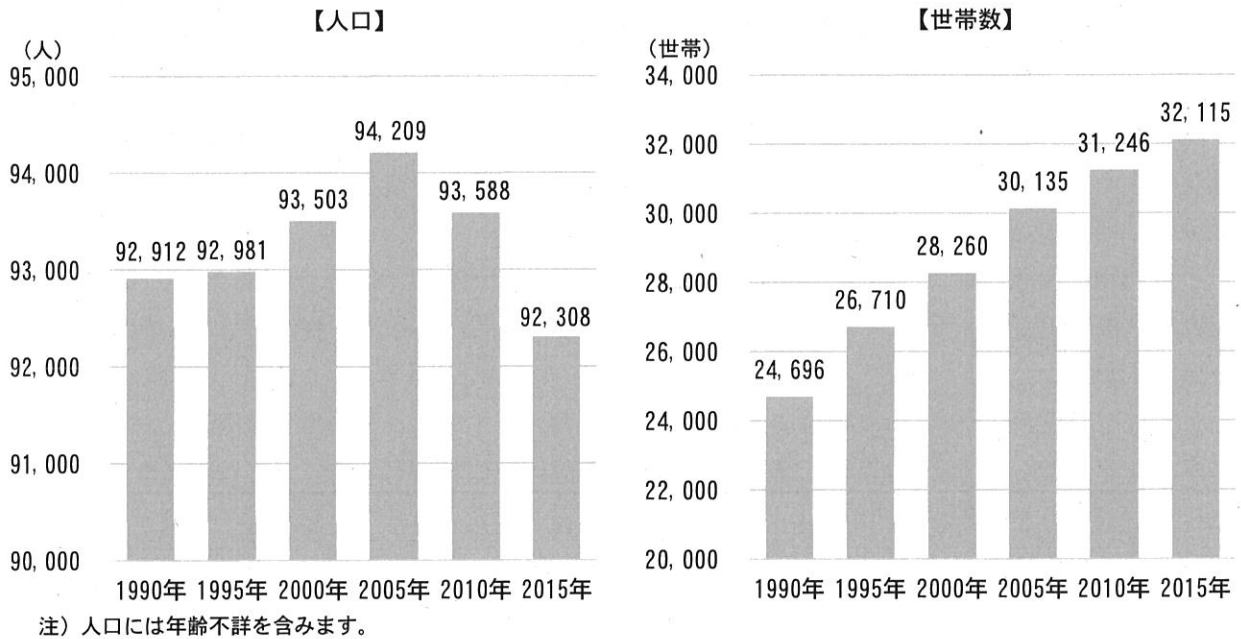
### ③人口

本市の人口は平成 17 (2005) 年の 94,209 人をピークに減少傾向にあります。世帯数は増加傾向にあり、核家族化が進んでいます。

年齢 3 区分別人口の占める割合は、高齢人口の割合は増加傾向にある一方で、年少人口や生産年齢人口の割合は減少傾向にあり、少子高齢化が進んでいます。

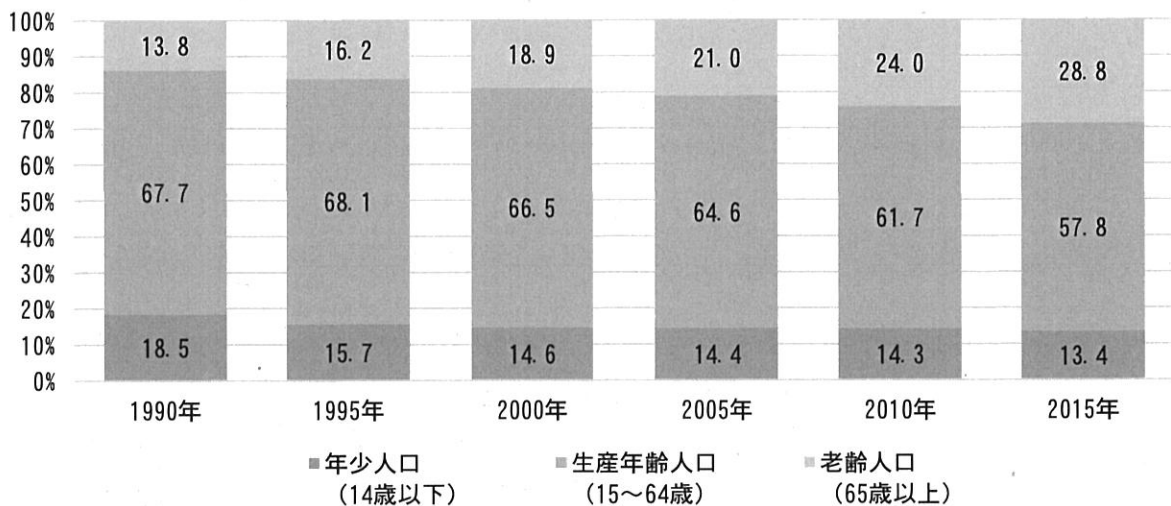
国立社会保障・人口問題研究所に準拠した人口推計によると、射水市の人口は 2060 年に約 6 万人まで減少すると推計されますが、本市では 2060 年の目標人口を『72,000 人』とし、その人口の確保に向けて各種施策・事業を推進していくこととしています。

図. 人口及び世帯数の推移



資料：国勢調査

図. 年齢 3 区分別人口の占める割合の推移



注) 割合は、分母から不詳を除いて算出。

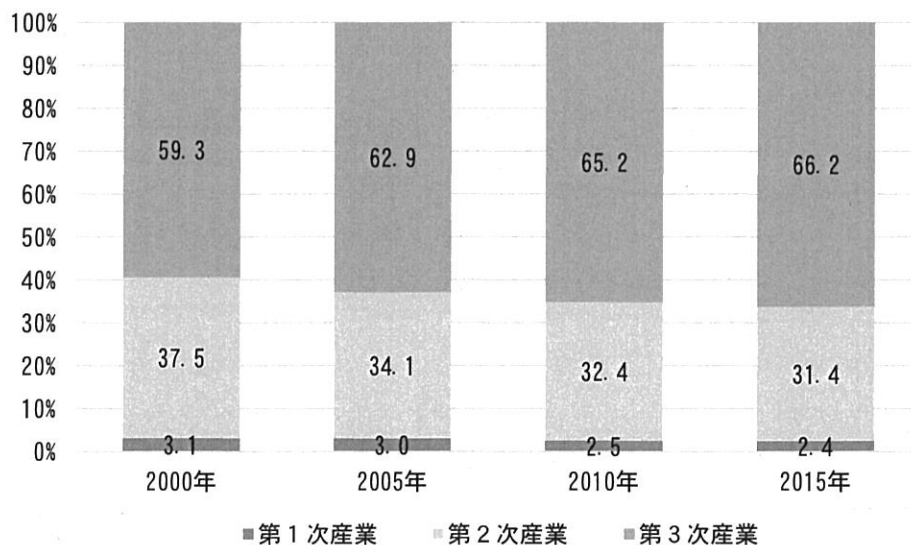
資料：国勢調査

#### ④産業

本市の産業（3部門）別就業者数の構成比は、第3次産業が最も多く増加傾向にあり、第1次産業と第2次産業が減少傾向にあります。

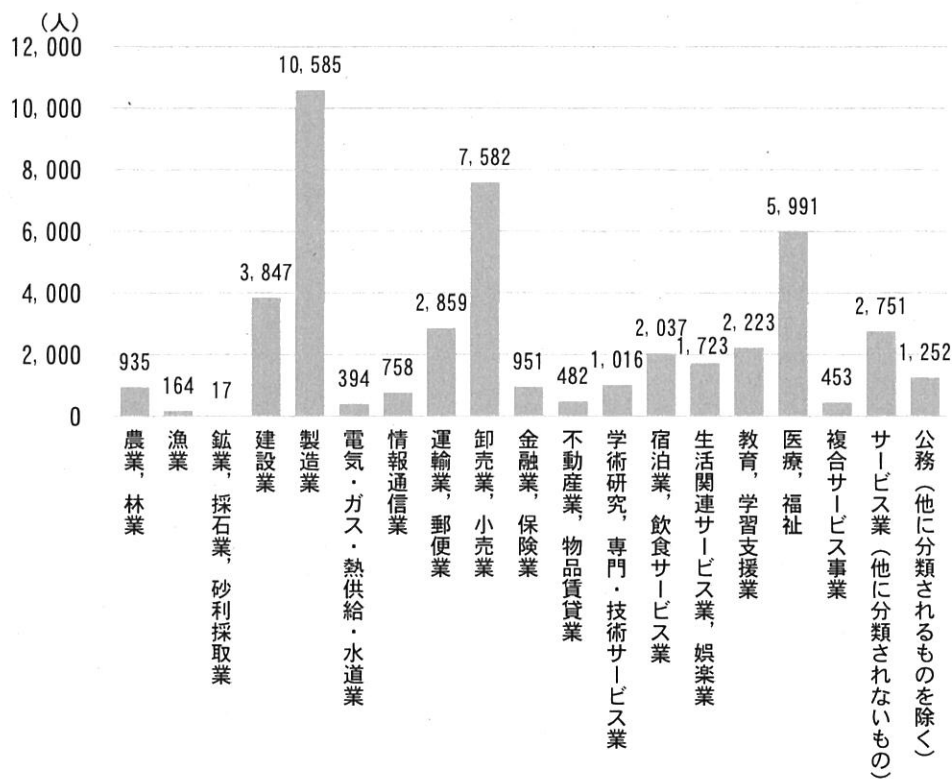
産業大分類別就業者数は、「製造業」（10,585人）が最も多く、次いで「卸売業、小売業」（7,582人）、「医療、福祉」（5,991人）となっています。

図. 産業（3部門）別就業者数の構成比



資料：国勢調査

図. 産業大分類別就業者数（2015年）



資料：国勢調査

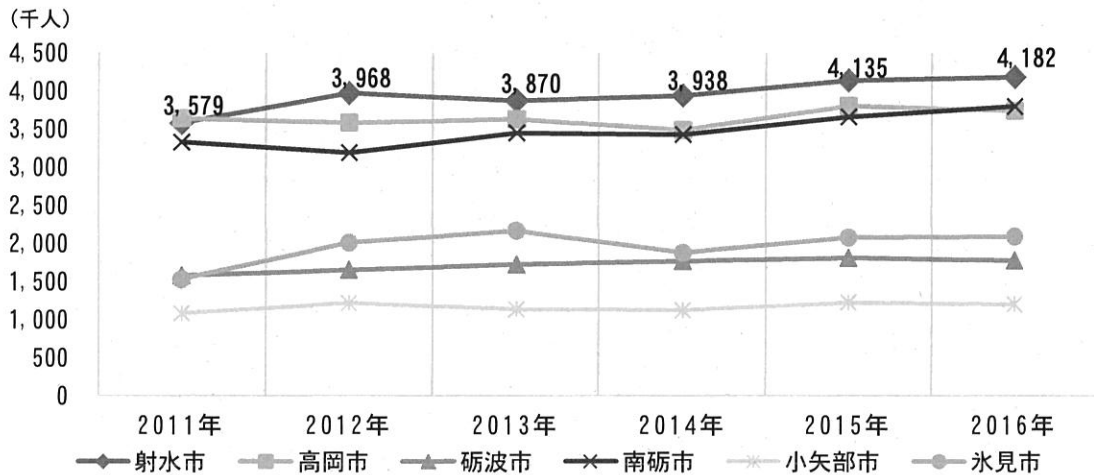
## (2) 射水市の観光動向

### ①射水市の観光客入込数

本市の観光客入込数は呉西圏域の中で最も高い値で推移しており、微増傾向にあります。

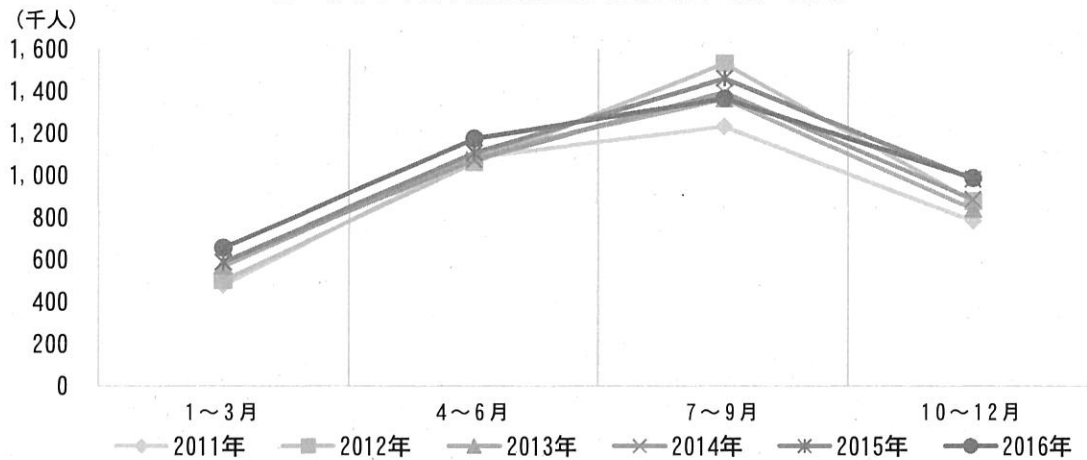
本市の四半期別観光客入込数は、過去5年間のうち2015年の観光客入込数が高い値で推移していますが（但し、7～9月は2012年が最も多い）、いずれの年も7～9月の値が最も多く、1～3月の値が最も少なくなっています。

図. 射水市をはじめとする呉西圏域の観光客入込数（延べ数）の推移



資料：富山県観光客入込数（推計）

図. 射水市の四半期別観光客入込数（延べ数）の推移



資料：富山県観光客入込数（推計）

射水市内の主な主要観光施設等（観光資源）と各々の入込数は以下のとおりです。

表. 射水市主要観光施設等入込数（2016年）（各年1月～12月、単位：人）

	観光施設 イベント名等	H27 入込数	H28 入込数	増減	内容
観光・ 交流 拠点	海王丸パーク	1,075,100	1,016,100	△ 59,000	海王丸係留、レストラン、軽食、イベント広場、展示室等
	太閤山ランド	740,166	808,347	68,181	プール、こどもみらい館、体育館、多目的スペース、円形ステージ等
	県民公園新港の森	124,930	122,650	△ 2,280	野球場、陸上競技場、緑地等
	新湊博物館	6,518	9,113	2,595	常設展示、企画展示
	陶房匠の里	13,430	14,549	1,119	陶芸体験、陶芸販売、研修室等
	大島絵本館	37,471	36,818	△ 653	絵本ギャラリー、軽食、ホール、企画展示等
特産物 販売	道の駅カモンパーク新湊	718,484	752,013	33,529	レストラン、軽食、特産物販売等
	川の駅新湊	43,716	65,384	21,668	レストラン、特産物販売、ギャラリー、曳山展示等
	新湊きつときと市場	638,500	621,200	△ 17,300	飲食、特産物販売等
スポーツ拠 点	小杉カントリー	54,458	47,769	△ 6,689	ゴルフ場
	太閤山カントリー	57,808	57,459	△ 349	ゴルフ場
	パークゴルフ南郷	38,277	38,277	0	パークゴルフ場
	下村パークゴルフ場	47,508	46,995	△ 513	パークゴルフ場
	海老江海浜公園海水浴場	27,642	28,419	777	海水浴場（夏季限定）
神社 仏閣	放生津八幡宮	27,898	24,032	△ 3,866	神社
	櫛田神社	111,600	148,700	37,100	神社
	加茂神社	6,000	6,000	0	神社
	蓮王寺	5,480	5,380	△ 100	寺
神事	やんさんま	5,000	5,000	0	加茂神社（5月）
	海老江曳山まつり	25,000	10,000	△ 15,000	海老江地区曳山3基（9月）
	新湊曳山まつり	80,000	100,000	20,000	新湊・放生津地区曳山13基（10月）
	大門曳山まつり	10,000	10,000	0	大門地区曳山4基（10月）
イベント	越中だいまん凧まつり	50,000	50,000	0	大門地区（5月）
	射水市獅子舞競演会	7,000	7,000	0	きつときと市場前（6月）
	小杉みこし祭り	14,000	18,000	4,000	小杉庁舎周辺（8月）
	富山新港新湊まつり	50,000	50,000	0	海王丸パーク（7月）
	ふるさと商工まつりin射水	7,000	7,000	0	小杉庁舎周辺（8月）
食の イベント	農業産業まつり	10,000	10,000	0	アルビス小杉総合体育センター（11月）
	新湊カニかに海鮮白えびまつり	50,000	50,000	0	新湊漁港（10月）
その他	黒河夜高祭り、稚児舞、火渡り 神事（櫛田・熊野）	6,100	6,100	0	5,000人以下の施設・イベント
	漁港 セリ見学	15,069	12,681	△ 2,388	

資料：射水市港湾・観光課



## ②射水市の宿泊施設数及び客室数

本市をはじめとする呉西圏域6市の客室数は、高岡市が最も多く、次いで砺波市・氷見市となっており、射水市は5番目となっています。

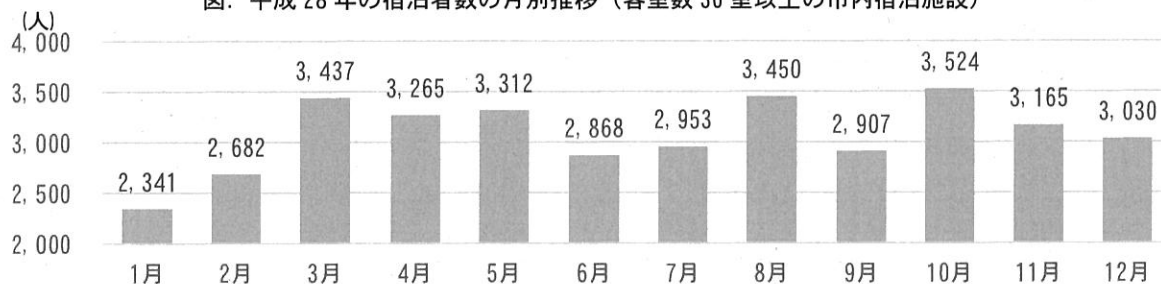
市内の宿泊者数は、春や秋が多く、冬が最も少なくなっています。

表. 射水市をはじめとする県西部6市の宿泊施設数及び客室数

	ホテル		旅館		計	
	施設数	客室数	施設数	客室数	施設数	客室数
射水市	2	60	6	113	8	173
高岡市	12	1,345	31	674	43	2,019
砺波市	4	542	12	229	16	771
南砺市	3	73	34	416	37	489
小矢部市	1	14	8	73	9	87
氷見市	9	273	38	498	47	771
(参考) 富山市	52	5,328	118	2,082	170	7,410

資料：平成28年富山県観光客入込数（推計）

図. 平成28年の宿泊者数の月別推移（客室数30室以上の市内宿泊施設）



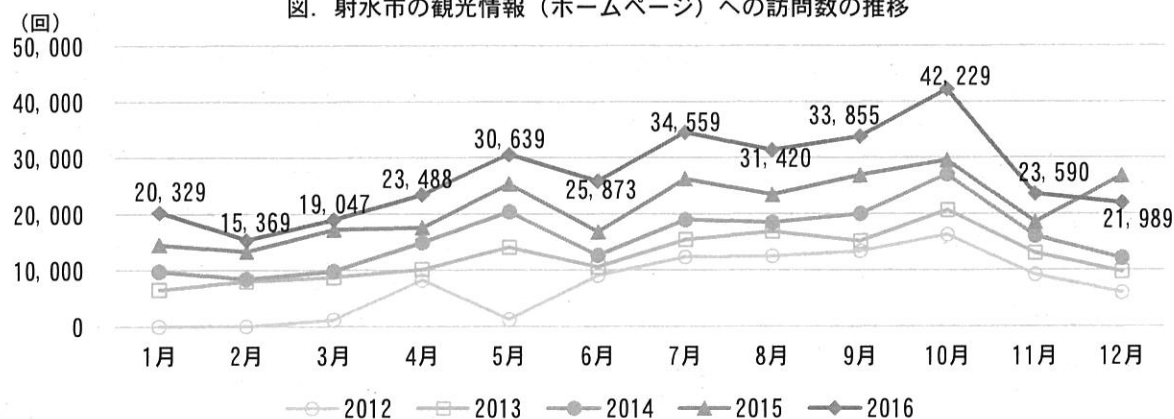
資料：射水市内観光関連事業者アンケート

## ③観光情報（ホームページ）への訪問数

本市の観光情報（ホームページ）への訪問数は、年々増加の傾向にあります。

平成28（2016）年の月別推移をみると、5月、7～10月は30千回以上となっており、特に10月の訪問数（42,229回）が最も多くなっています。一方、1～4月、11・12月は25千回未満で推移しています。

図. 射水市の観光情報（ホームページ）への訪問数の推移



資料：射水市港湾・観光課調べ

#### ④射水市の交通

##### 【北陸新幹線の開業】

平成 27 (2015) 年 3 月 14 日の北陸新幹線の開業により、本市と隣接する富山市と首都圏は約 2 時間で結ばれ、新幹線の持つ「高速・定時・大量」といった旅客力の発揮が期待されます。

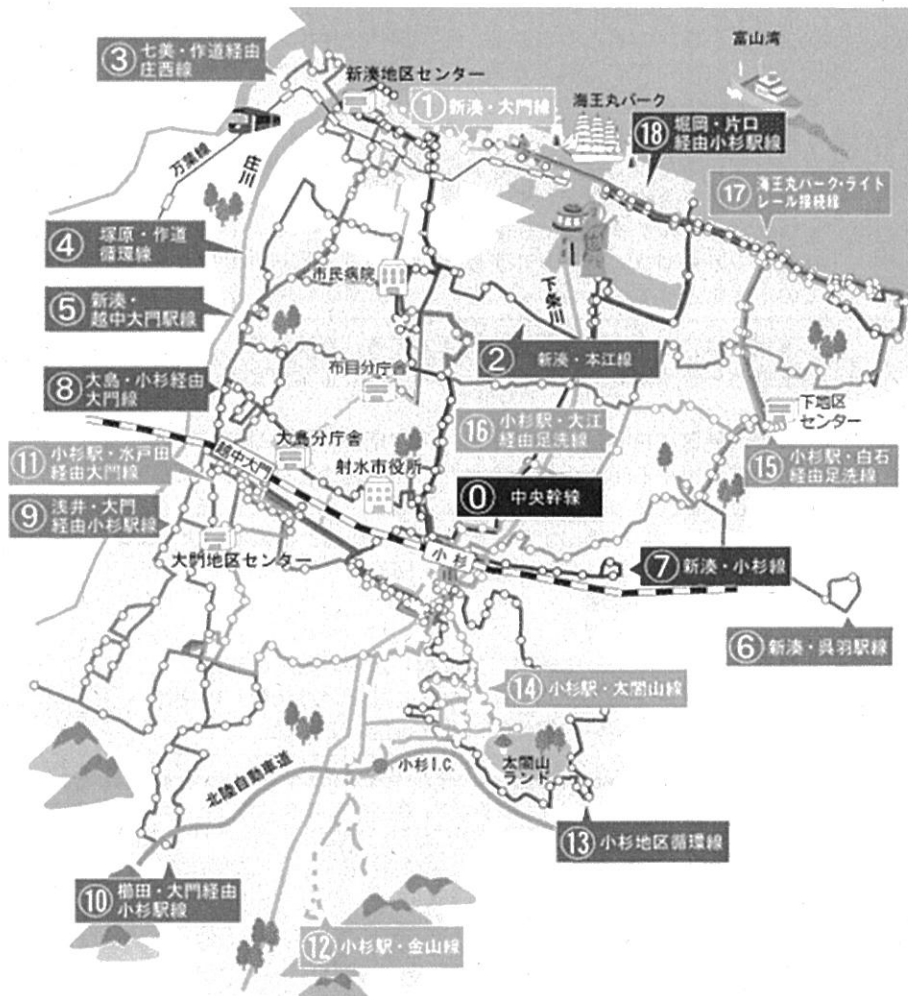
##### 【新湊大橋の開通】

新湊大橋（車道部は平成 24 年 9 月・歩道部は平成 25 年 6 月）により、東西のベイエリアがつながるとともに、ランドマークとしての役割が期待されます。

##### 【市内交通網】

市内の交通網は、東西にあいの風とやま鉄道や北陸自動車道、国道 8 号、南北に国道 472 号等が整備され、市内移動手段には高岡市と新湊地区を結ぶ万葉線、19 路線で市内を網羅するコミュニティバス、デマンドタクシー（大門・大島地区、予約制、相乗り）、民間路線バス、タクシー等があります。

図. 射水市コミュニティバスのルート



資料：射水市ホームページ

## ⑤その他射水市の観光を取り巻く環境変化

【旧新湊庁舎の利活用「観光拠点機能を備えた公共交通の結節点」】

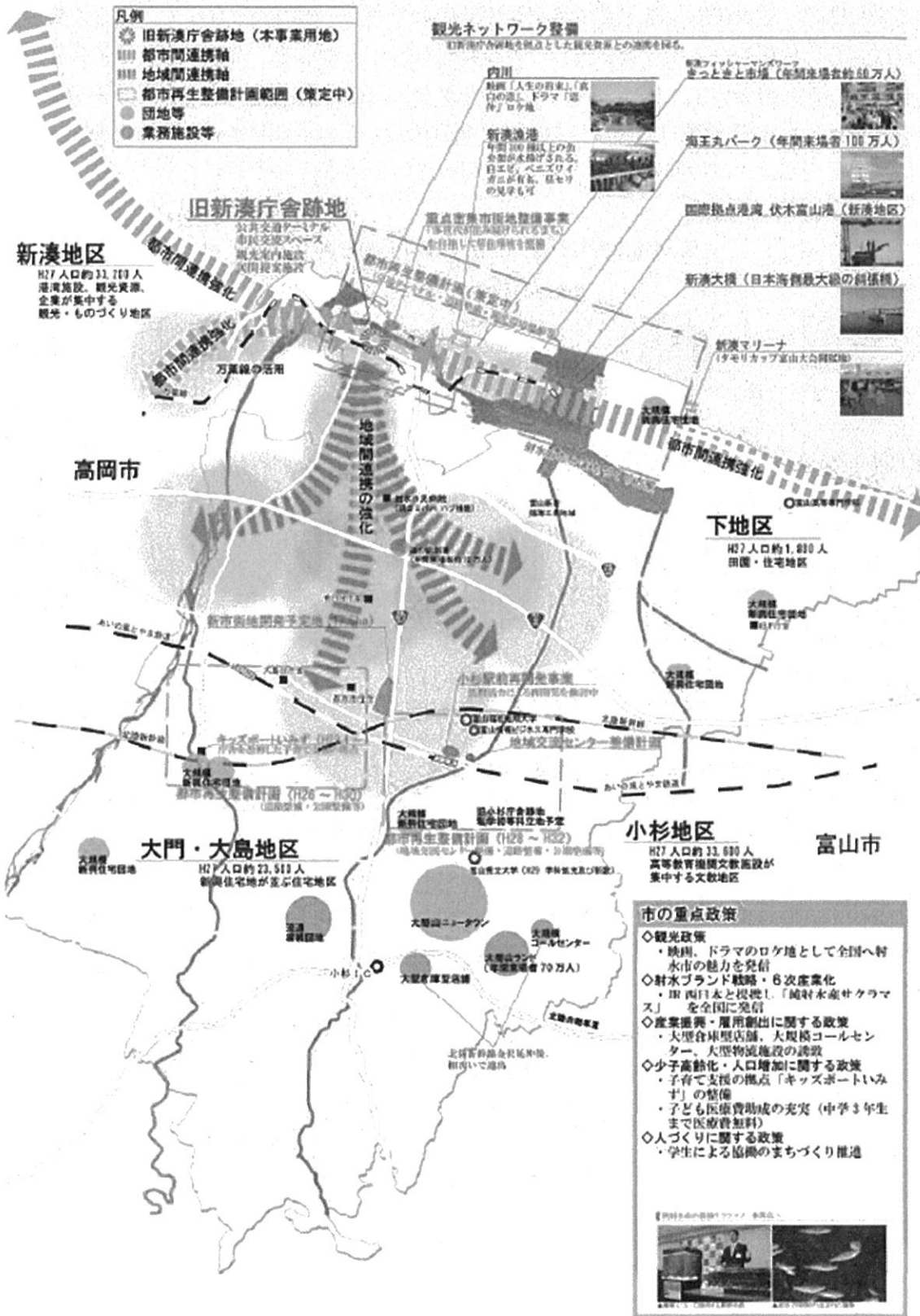
本市では、平成 28（2016）年の新庁舎開庁に伴い、各庁舎の建物や跡地の利活用の基本的な考え方や庁舎ごとの方向性を決めました。

特に市内外の交流を促進する拠点となる旧新湊庁舎跡地利活用事業の事業計画の概要は以下のとおりです。

表. 旧新湊庁舎跡地利活用事業の事業計画の概要

事業名称	旧新湊庁舎跡地利活用事業
事業対象用地	<ul style="list-style-type: none"> <li>・旧新湊庁舎跡地 約 12,000 m<sup>2</sup></li> <li>・射水商工会議所所有地 約 1,300 m<sup>2</sup></li> </ul>
事業目的	観光・ものづくりゾーンとして、豊富な観光資源を生かし、安定的に交流人口を受け入れるため、公共交通（万葉線、コミュニティバス、路線バス等）の結節点として、観光機能も備えた公共交通ターミナルの整備を図る。併せて、新湊地区センターや市民交流機能の他、地元事業者の事務所等の機能も備えた複合交流施設の整備を図る。
基本方針	<p>(1) 新たな賑わいの創出へつながる施設計画</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・公共交通（あいの風とやま鉄道、万葉線）や他地区と動線整備（コミュニティバス等）を視野に入れた点在する観光資源との連携強化、観光客の受け入れ及び情報発信体制（観光機能）の確保を行う。</li> </ul> <p>(2) 地域への貢献</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・事業の実施にあたっては、地域経済の進行や地元雇用の創出を行う。</li> <li>・地域住民が集う交流の場としての位置付けの強化を行う。</li> </ul> <p>(3) ユニバーサルデザインに配慮した施設計画</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・バリアフリーやユニバーサルデザインを取り入れ、乳幼児から高齢者、障がい者まですべての市民にとって使いやすく、安心して快適に利用できる施設とする。</li> </ul>
位置付け	<p>本事業用地は、射水市の主な観光資源である、新湊大橋、内川、新湊漁港、きつときと市場、海王丸パークや港湾施設を有し、ものづくり企業が集積している「新湊地区」に位置している。</p> <p>市は、新湊地区のほかに、小杉地区、大門地区、大島地区、下地区から構成されており、各々が合併前の旧中心市街地を中心とした生活圏を形成している。本事業は、これら地域間連携の強化及び観光ネットワークの整備を図り、市全域の観光・産業の振興を促し、住みやすいまちとして賑わいを創出する役割を担っている。本事業により、以下の項目を実現させ、新湊地区の活性化、定住・交流人口増加を図る。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①地域住民が集う交流の場</li> <li>②点在する観光資源の連携</li> <li>③公共交通（あいの風とやま鉄道、万葉線）からの動線の確保</li> <li>④地域間連携の強化を図る公共交通（コミュニティバス等）の整備</li> <li>⑤観光客の受け入れ、情報発信体制（観光機能）の確保</li> </ol>
導入想定機能	<p>(1) 公共施設としての必要機能</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・新湊地区センター</li> <li>・コンベンション施設</li> <li>・市民交流スペース</li> <li>・観光案内施設</li> </ul> <p>(2) 民間施設として期待する機能</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・オフィス機能（地元事業者含む）</li> <li>・賑わい創出機能、定住促進等、地域の活性化に資する機能</li> <li>・地元食材販売所、宿泊施設等、観光振興に資する機能</li> </ul> <p>(3) 公共交通ターミナルとしての必要機能</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・コミュニティバス、路線バス、観光バス、タクシー等の乗り入れを想定</li> </ul>

図. 射水市のプロジェクト関連図

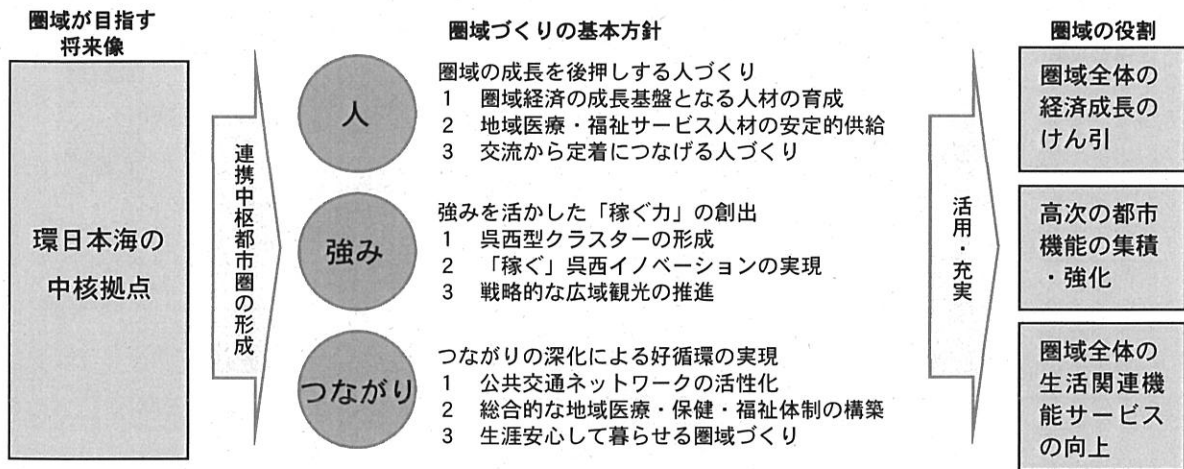


資料：旧新湊庁舎跡地利活用事業 事業計画

【呉西圏域における広域連携「環日本海の中核地点」】

呉西圏域は射水市や高岡市、氷見市、小矢部市、砺波市、南砺市の6市で構成され、高規格幹線道路や鉄軌道、港湾等が集結する広域交通の結節点であり、国内のみならず、日本海対岸諸国も視野に入れた広域的な交流・交易拠点という特色を持っています。人口減少・少子高齢化が進行する昨今の社会情勢の中、地域の再生、創生を果たすため、富山県西部6市で構成する「とやま呉西圏域」において、「環日本海の中核拠点」を目指し、そのネットワークの強化を図り、地域経済の活性化や交流人口の拡大、定住の促進を図っていく必要があります。

図. 「富山呉西圏域」連携中枢都市圏の形成イメージ



【インバウンドの増大と2020年東京オリンピック・パラリンピックの開催】

中国発クルーズ船の寄港数の大幅増加やLCC（格安航空会社）の路線拡大、燃油サーチャージの値下がりによる航空運賃の低下、継続する円安基調がもたらした訪日旅行の割安感、ビザ発給要件の緩和、消費税免税制度の拡充等により、訪日外国人旅行者数の人数・伸び率はともに過去最高を記録し、平成27（2015）年の訪日外国人旅行者数は19,740千人（前年比47.1%増）となりました。

平成32（2020）年の東京オリンピック・パラリンピック開催に向けて、ハード・ソフトにわたる観光インフラの整備に取り組んでいくことにより、今後の更なる市場拡大が期待されます。